

第88回

史跡めぐり資料

(流山市)

越谷市郷土研究会

昭和53年7月23日

第88回 史跡めぐり

案内

1. 日時 7月23日(日)
南越谷駅集合 午前9時30分
1. 場所 千葉県流山市
1. コース 南越谷駅^{国鉄}南流山駅^{徒歩}東福寺
(昼食)^{徒歩}鮎崎駅^{流山線}流山駅^{徒歩}
郷土資料館^{徒歩}近藤勇陣屋跡^{徒歩}
赤城神社^{徒歩}三郷駅^{国鉄}南越谷駅
1. 会費 800円
昼食については、各自持参してください。

※メモ

流山市

昭和42年1月市制施行、人口約6万3,000人、面積35.3km²。流山鉄道流山駅と、東武野田線、逕河・江戸川台・初石の各駅がある。

県北西部、江戸川東岸にある田園都市で、地域の西部は江戸川低湿帯で良質米の産地、東部の両総台地上は近郊畑作農業地帯となっている。古くからミリンの産地としても名高く、隣接する野田市の醤油とともに、県北西部の醸造工業の双料といわれている。

むかしは江戸川水運の河港として栄えてきたが、現在では江戸川台・松ガ丘団地など宅地造成が急速に進められ、東京都のベッドタウン的性格が次第に強くなってきている。

見どころとしては東福寺や赤城神社・諏訪神社などの古社・古刹がある。



赤城神社 赤城台駅から徒歩約10分。

創建年代は明らかではないが、往古、江戸川べりに流れついた上州赤城山神社の棟札を、里人達が祀ったのが始まりと伝えられている。

社地は市街地の南端にぼっかりと盛り上がった海拔約15m、周囲350m余りの赤城山一帯を占め、

面積は約2,200m²。社殿は1間4方の本殿と、間口5間、奥行3間の拜殿などを備え、本殿の棟札には「元和6年9月29日建立」とある。

また赤城山の名はむかし、上州赤城山の一部が江戸川の大洪水で流され、ここに留まったという伝説から出たものといわれ、流山の地名もこれに由来するという説もある。頂上からは西方眼下に江戸川の河景が一望できる。

〔祭神〕 大己貴命

東福寺 市内蛸ヶ崎。蛸ヶ崎駅の西約300m、徒歩7分。

守庵山と号し、弘仁5年(814)空海の開山と伝える真言宗の古刹である。

本尊は薬師如来(弘仁期空海作)と、不動明王(伝運慶作)の2尊。堂宇は本堂・庫裏・鐘楼・山門などを備え、寺宝に中門の上欄に彫られた左甚五郎の作と伝える経轆、運慶の作という山門の仁王像がある。

寺地は蛸ヶ崎駅西方の高台上を占め、面積は約1万5,000m²。西に開ける江戸川の河景や、流山市街地の眺めがすばらしい。

〔宗派〕 真言宗叡山派 (山号) 守庵山 (開山) 弘法大師

近藤勇陣屋跡 市内流山2丁目。流山駅から徒歩約5分。

京都鳥羽伏見の戦い、甲陽鎮撫隊を率いての甲州(山梨県)勝沼の戦いと、いずれも官軍に敗れた近藤勇が、再挙を図った陣屋跡である。

勇以下甲陽鎮撫隊の一行が流山に入ったのは、慶應4年(1868)3月の中旬で、酒造家長岡屋、現在の秋葉商店付近を本陣とし、近郷から500名余りの隊士を募ったが、同年4月3日、勇が単身官軍に降伏し、激しい戦闘は起こらなかった。

現在、流山市街地の家並みの中、椎の古木の下に「近藤勇陣屋跡」と書かれた標柱がたつのみで、当時の面影は偲ぶべくもない。